

令和6年11月21日 00718号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町8丁目4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp

# 北見武道通信

URL <http://www.kitamibudokan.org/>



## ニュースレター【事務局情報】2024 少年柔道大会と柔道教室

11月16日(土)北見市柔道協会主催の「2024 オホーツク少年柔道大会」が小中学生合わせて215選手で行われました。大会終了後には、北海道警察の講師3名による「柔道強化講習会」があり、17日(日)も行われました。対象は小学3年生以上高校一



般迄、参加者71人が2日間にわたり「固め技・立ち技」の指導を受けました。

3名の講師が、それぞれ得意技を披露し、子供たちに細かく分析して伝えまし

た。この講習会は毎年少年柔道大会と併せ行われていますが、初めて講師として参加した鷲見仁義ひとよし三段は「素晴らしい武道館で、子供たちと楽しく柔道ができました」と笑みをうかべ、北見出身の牧山力也りき講師三段には、積極



的な何人もの後輩が争うように先輩に挑み、連続10本自由稽古では、講師が息を切らす場面もあり、楽しい講習会となりました。閉会式では、西尾静男協会長が「今回ならったことを継続することが大切。

明日からの稽古にも忘れずに活かしてください」と挨拶。主任講師の一戸勇人六段からは「皆さんは、この武道館やたくさんの先生方がいるなど、素晴らしい環境で柔道を学ぶことが出来ていて幸せに思います。柔道は、人間を正しく成長させる道でもあり、これからも続けて一緒に柔道を学びましょう」と子供たちを激励しました。(佐藤)



**事務所の花シリーズ** 青紫のクジャク草が咲きました。(渋谷)

**連載 中国「老子」の思想 六十章「小鮮(しょうせん)を烹(に)る」** 大国を統治

することは、あたかも小魚を煮るに等しい。手を加えずに、煮ることだ。「道」にのっとり、無為の政治行えば、神靈かみたまも靈驗を示さなくなる。神靈が靈驗を示さぬばかりか、人民が神靈の存在を意識しなくなる。ひとり神靈の存在のみならず、人民は聖人の存在をも意識しなくなるのだ。人民が神靈の存在を意識せず、聖人の存在を意識せぬ。かくてこそ、神靈の恩沢と聖人の徳とが、人民に及んだといえるのである。〈大国を統治する〉論理の上からいえば、大国である必要はなく、国一般でよいわけである。下の「小魚」と対比させて、対照的な効果を狙ったのであろう。〈神靈〉原文は「鬼」。死者の靈魂のこと。人間に禍福吉凶を下す力を持つものとして、根強く信仰されていた。原文：治大國、若烹小鮮。以道莅天下、其鬼不神。非其鬼不神、其神不傷人。非其神不傷人、聖人亦不傷人。夫兩不相傷。故徳交歸焉。六十一章に続く